

自尊心が  
育っていない子  
について  
考えてみました

# しかられて

記事内容はわたし個人の見解であり、すべての方への有効性は保証できません。  
ご意見などの宛先 horikawassw@gmail.com



ある程度大きくなるまで子どもは、**自分**を持ちません。本能のままに**生きています**。

おしめがぬれたら泣き声をあげます。きれいにしたい気持ちではなく、不快だからです。

でも、この不快な思いが、自分を意識するカギかもしれません。

家にこもって洗顔や歯磨き、着替え、入浴をしなくなるのは、他人に会わないからだけでなく、**生きること**への影響が出ていると考えられ、不登校の次の段階、もはや病気ではないでしょうか。

## ☆1

二十歳直前の一か月、入院しました。麻酔から覚めて一週間ほどはトイレにも行けずベッドでおまるのお世話になりました。

この時一番の願いは、治る事より自分の足でトイレに行くことでした。

障害を持って生まれた方も含め、自分一人でトイレを使うことは、人としての尊厳のベースかもしれません。ですから年若い再び、自力でトイレに行けなくなった人への介護でも一番心を配って欲しい事です。

## ★2

こう考えると子どものトイレ・トレーニングは、社会参加することの基礎作りと言えるのではないのでしょうか。

もちろん、子どもによって、環境によってトイレ終了には個人差があります。だからこそここに、あなたがその子の人格形成にどのように関わるか、重要な節目となるのではないのでしょうか。

しからないで欲しいのです。他の子と比べないで欲しいのです。

しかられて育つ子は、自分はダメな子だと思い込んで、しかられる度に自分の中に逃げ込んでしまい、どんなにその子を思っ  
て言っても心の耳をふさいでしまい、思いが届かない子に育ってしまいがちです。

トイレは、子育てをするあなたへの試金石。どれだけ根気よく子どもと付き合っ  
て行くかが試されます。

親は遠くから子どもを見守る存在であ  
って欲しいものです。その子自身や周りの人  
や心、物を傷つけるとき、そうなる可能性  
があるときにはしかりましょう。

それ以外は、根気よく教えてあげてくだ  
さい。

あなたがどんなに願っても  
叱っても魚は釣れません。  
やることをやって待ちましょう

